

第二次町田市環境マスタープランの 振り返り

本資料は、第二次町田市環境マスタープランの10年間の総括を基本目標ごとに記載しています。資料のポイントは以下のとおりです。

ポイント0

第二次町田市環境マスタープランの振り返り

第3次町田市環境マスタープラン策定のため、環境審議会の中でも振り返りは行っていますが、本資料では計画最終年の数値を追加しています。

ポイント1

2021年度までの達成目標

基本目標ごとに、3つの達成目標を設定しており、それぞれの達成目標の結果（速報値含む）をグラフで記載しています。

ポイント3

基本目標の総括

基本目標ごとに総括を記載しています。

基本目標1 地域で取り組む地球温暖化の防止 ～低炭素社会を目指すまちづくり～

達成目標



市民一人あたりの二酸化炭素排出量は、2017年度以降、減少傾向にありましたが、2020年度は3.77t-CO2となり目標達成に至る可能性が低いです。



マイカーの使用をできるだけ控えるという市民の割合は基準年度に比べて6.8ポイント減少しました。※市民アンケート結果から算出

基本目標1については、達成できた達成目標はありませんでしたが、わたしのエコ宣言制度やエコドライブの周知、普及・啓発を実施するなど、市民の方に対して、地球温暖化対策の重要性もお伝えしてきました。次期計画である第3次町田市環境マスタープランでは、地球温暖化対策により力を入れ、温室効果ガスの削減や再生可能エネルギーの普及拡大等を進めていきたいと考えています。

ポイント2

2021年度までに実施した主な取組

2021年度までに実施した主な取組を記載しています。

2021年度の具体的な取組については、参考資料1をご覧ください。

2021年度までに実施した主な取り組み

- ・地球温暖化防止のために日常生活の中で行う取り組みを市民の方に宣言していただく「わたしのエコ宣言」を、2021年度までで計9,164名の方に宣言いただきました。
- ・自動車から排出される温室効果ガス排出抑制のため、エコドライブステッカーの作成、配布等も行いながらエコドライブの周知、普及・啓発を実施しました。



市の補助金制度事業は、2017年度に終了し、(参考)FITでの再生可能エネルギー率は直になっています。

望ましい環境像

水とみどりとにぎわいの調和した環境都市 まちだ

計画期間

「第二次町田市環境マスタープラン」の計画期間は2012年度から2021年度までの10年間です。

「第二次町田市環境マスタープラン」を推進するためにより具体的な取組を記載した計画

「後期アクションプラン ～第二次町田市環境マスタープラン推進計画～」は、2017年度から2021年度までの5年間の計画です。



基本目標

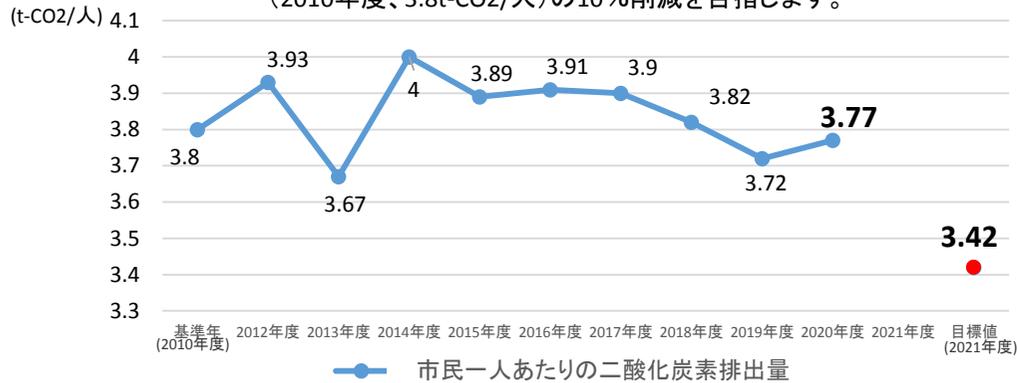
望ましい環境像を実現するため、5つの基本目標を環境政策の大綱として位置づけています。

- 1 地域で取り組む地球温暖化の防止
- 2 自然環境と歴史的文化的環境の保全
- 3 持続可能な循環型社会の構築
- 4 良好な生活環境の創造
- 5 環境に配慮した生活スタイルの定着

基本目標 1 地域で取り組む地球温暖化の防止 ～低炭素社会を目指すまちづくり～

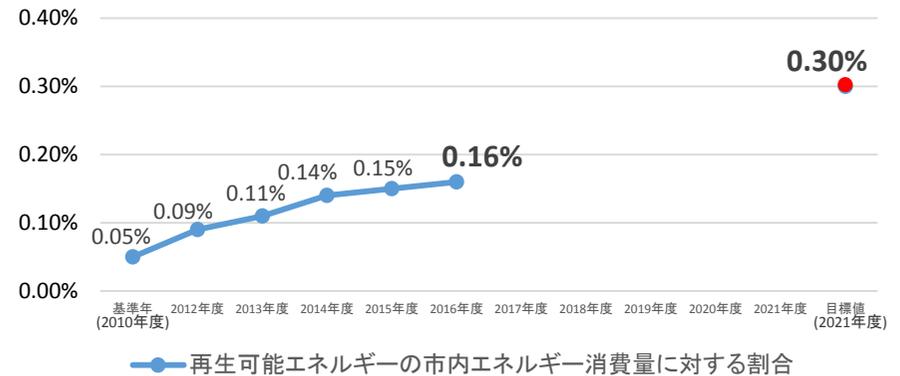
達成目標

①市民一人あたりの二酸化炭素排出量
(2010年度、3.8t-CO2/人)の10%削減を目指します。



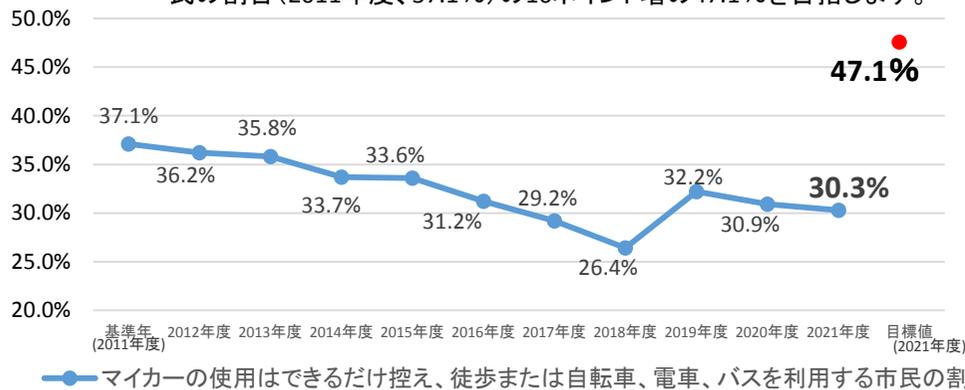
市民一人あたりの二酸化炭素排出量は、2017年度以降、減少傾向にありましたが、2020年度は3.77t-CO2となり目標達成に至る可能性が低いです。

②再生可能エネルギーの市内エネルギー消費量に対する割合
0.3% (2010年度、0.05%)を目指します。



市の補助金制度事業は、2017年度に終了しました。
(参考) FITでの再生可能エネルギー率は直近2020年度で3.0%となっています。

③マイカーの使用はできるだけ控え、徒歩または自転車、電車、バスを利用する市民の割合 (2011年度、37.1%)の10ポイント増の47.1%を目指します。



マイカーの使用をできるだけ控えるという市民の割合は基準年度に比べて6.8ポイント減少しました。※市民アンケート結果から算出

2021年度までに実施した主な取組

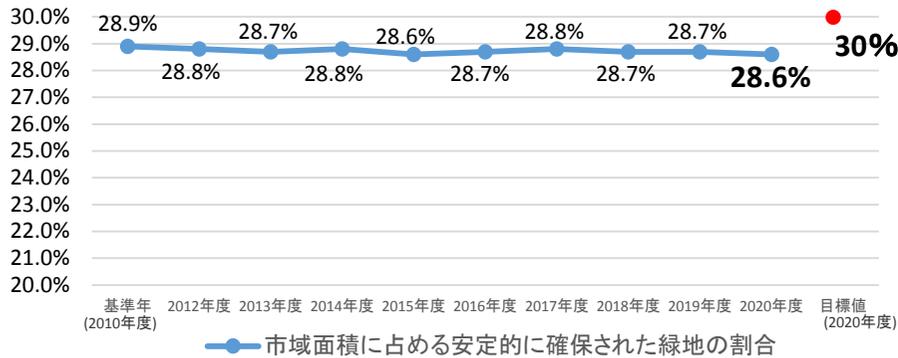
- ・地球温暖化防止のために日常生活の中で行う取組を市民の方に宣言していただく「わたしのエコ宣言」を、2021年度までで計9,164名の方に宣言いただきました。
- ・自動車から排出される温室効果ガス排出抑制のため、エコドライブステッカーの作成、配布等も行いながらエコドライブの周知、普及・啓発を実施しました。

基本目標1については、達成できた達成目標はありませんでしたが、わたしのエコ宣言制度やエコドライブの周知、普及・啓発を実施するなど、市民の方に対して、地球温暖化対策の重要性もお伝えしてきました。
次期計画である第3次町田市環境マスタープランでは、地球温暖化対策により力を入れ、温室効果ガスの削減や再生可能エネルギーの普及拡大等を進めていきたいと考えています。

基本目標 2 自然環境と歴史的文化的環境の保全 ～水とみどりと生き物を守り育むまちづくり～

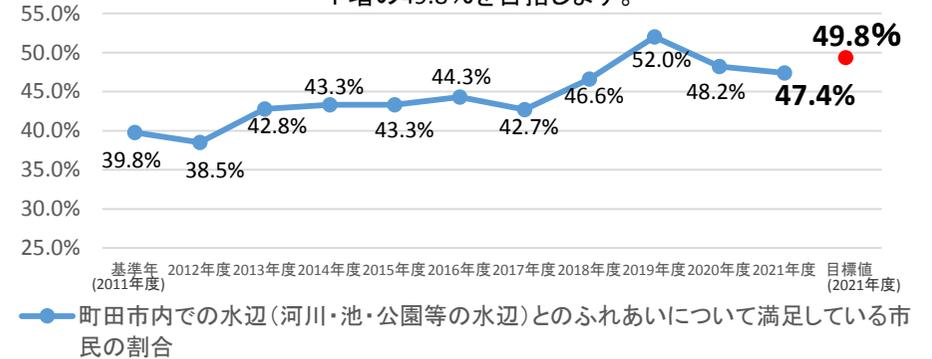
達成目標

①市域面積に占める安定的に確保された緑地の割合(2010年度、28.9%)を、2020年度までに概ね30%確保することを目指します。



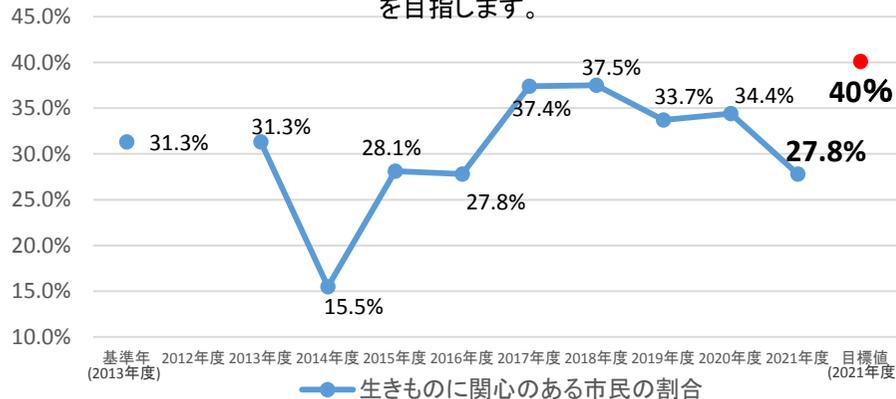
市域面積に占める緑地の割合は、ほぼ横ばいを推移しました。

②町田市内での水辺(河川・池・公園等の水辺)とのふれあいについて満足している市民の割合(2011年度、39.8%)の10ポイント増の49.8%を目指します。



水辺とのふれあいについて、満足している市民の割合は目標達成とはならなかったものの基準年度から7.6ポイント増加しました。

③生きものに関心のある市民の割合40%(2013年度、31.3%)を目指します。



生きものに関心のある市民の割合は、基準年度から3.5ポイント減少し、目標達成とはなりません。

2021年度までに実施した主な取組

- ・市民通報アプリ「まちピカ町田くん」の撮影機能を活用し、市民の方が撮影した生きものの写真を「生きもの発見レポート」として収集し、生きものに対する興味・関心の向上を図りました。
- ・市内の公園に生物多様性に関する情報を提供する「生きもの情報コーナー」を設置し、より多くの方に周知できる場を設けました。

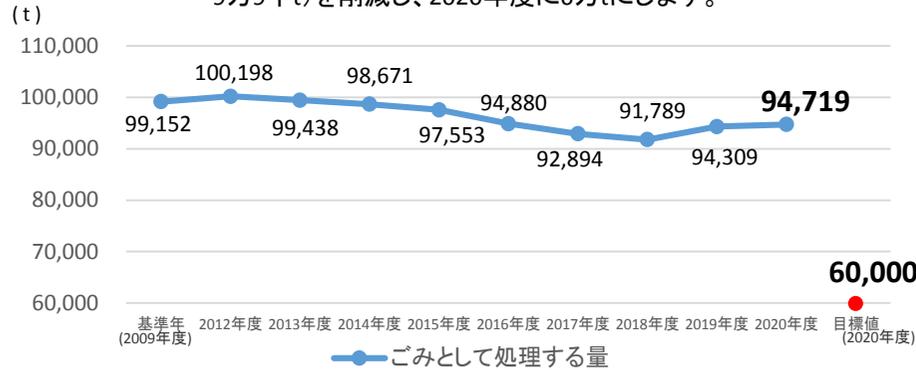
基本目標2についても、目標値を上回った達成目標はありませんでしたが、水辺とのふれあいについて満足している市民の割合といったある程度の上昇がみられたものもありました。

そのほかの達成目標については基準年度の数値を下回りましたが、「生きもの発見レポート」のキャンペーンを行う等、市民の方に生きもの等に対して興味をもってもらう機会の創出や啓発を引き続き行っていきます。

基本目標3 持続可能な循環型社会の構築 ～ごみを減らし資源を有効活用するまちづくり～

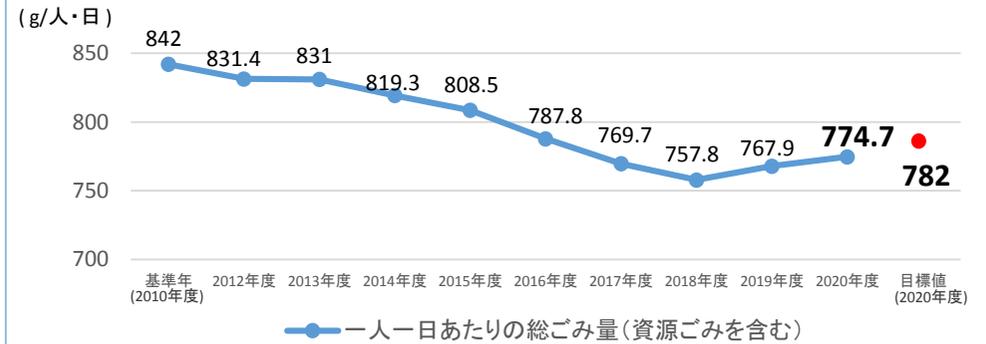
達成目標

①ごみとして処理する量(資源ごみを含まない:2009年度、9万9千t)を削減し、2020年度に6万tにします。



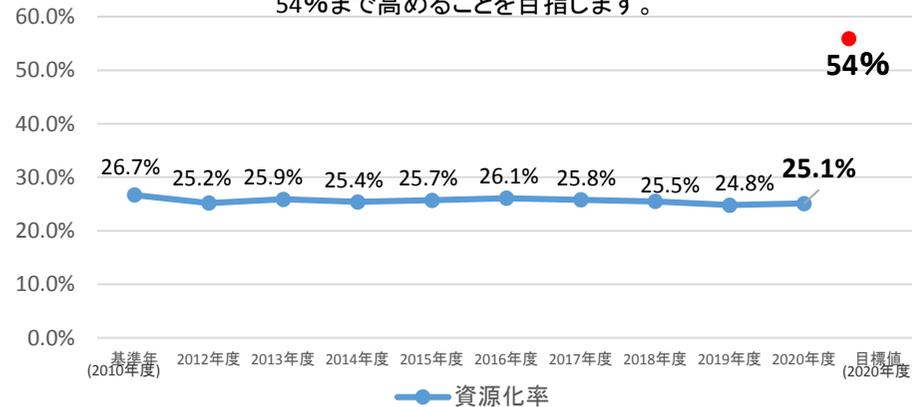
ごみとして処理する量は、基準年度から4,433t減少しましたが、目標達成とはなりませんでした。

②一人一日あたりの総ごみ量(資源ごみを含む:2010年度、824g/人・日)を、2020年度までに782g/人・日に削減することをめざします。



一人一日あたりの総ごみ量は、2020年度に774.7gとなり、目標を達成しました。

③資源化率(2010年度、26.7%)を、2020年度までに54%まで高めることを目指します。



資源化率については目標達成とはならず、ほぼ横ばいを推移しました。

2020年度までに実施した主な取組

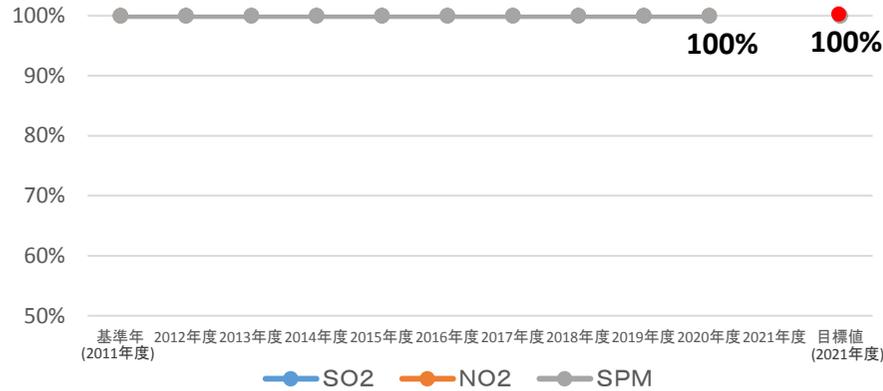
- ・新しい清掃工場である町田市バイオエネルギーセンターの整備を行いました。(2021年度に稼働開始しました。)
- ・ごみ減量に関する出前講座や、SNS、動画を活用したごみの減量の普及啓発を行いました。

※分野別個別計画「一般廃棄物資源化基本計画」(2011～2020年度)にあわせて、2020年度までを記載しています。

基本目標3については、一人一日当たりの総ごみ量が目標達成となりました。そのほかの達成目標については、目標達成とはなりませんでしたが、引き続き、ごみの減量に関する普及啓発や資源化施設の整備を進めていきます。

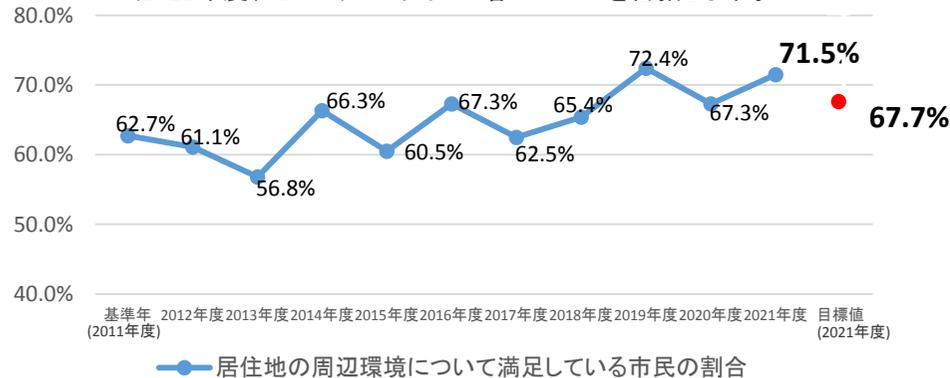
基本目標 4 良好な生活環境の創造 ～安全で快適な暮らしを実現するまちづくり～

達成目標 ①大気に関する全ての項目での環境基準の達成を目指します。



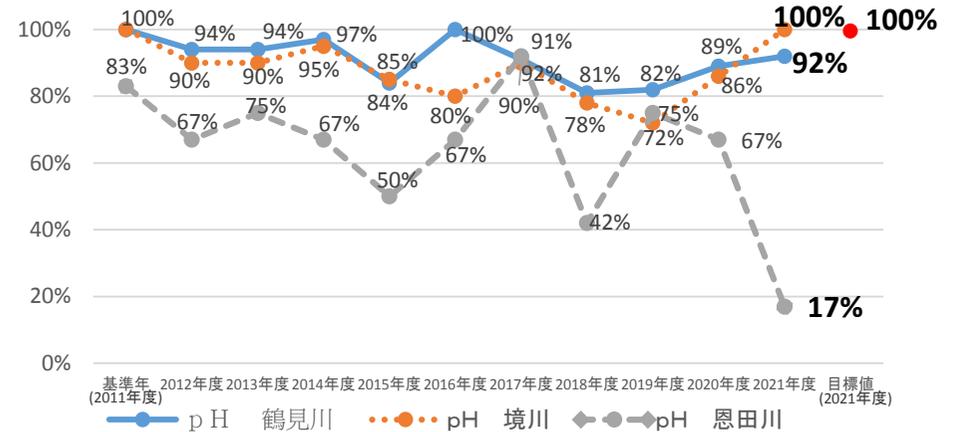
大気に関する全ての項目で環境基準を達成しました。

③住居地の周辺環境について満足している市民の割合 (2011年度、62.7%)の5ポイント増の67.7%を目指します。



住居地の周辺環境について満足している市民の割合は増加の傾向がみられ、2021年度には71.5%となり、目標を達成しました。

②鶴見川、境川、恩田川の水質に関するすべての項目での環境基準の達成をめざします。(pHのみ掲載)



pH以外は、3河川とも環境基準を達成しました。pHは、3河川ともアルカリ側に超過しており、藻の光合成の影響と考えられます。

2021年度までに実施した主な取組

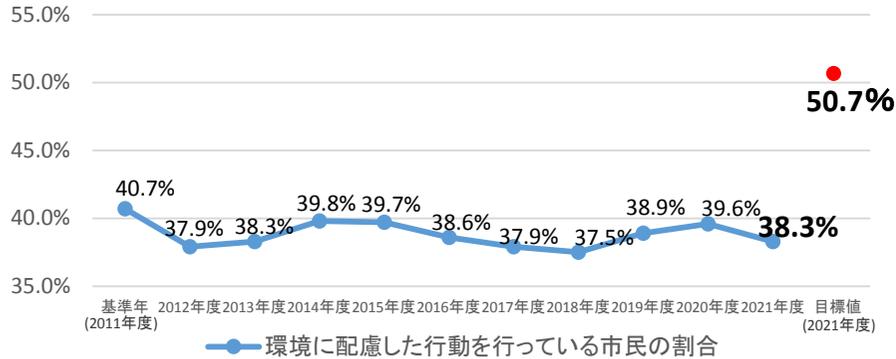
- ・自転車利用環境の整備のため、自転車走行空間を3.26km（2016年度時点：1.37km）まで整備しました。
- ・下水処理水の水質向上のため、高度処理率を30.0%（2015年度：9.8%）まで向上させました。

基本目標 4 については、2つの達成目標を達成しました。目標を達成をしなかった「鶴見川、境川、恩田川の水質に関するすべての項目での環境基準の達成をめざします」についても、鶴見川、恩田川のpH以外は環境基準を達成しました。現在の生活環境を維持できるよう、取組を進めていきます。

基本目標5 環境に配慮した生活スタイルの定着 ～学び・協働で進めるまちづくり～

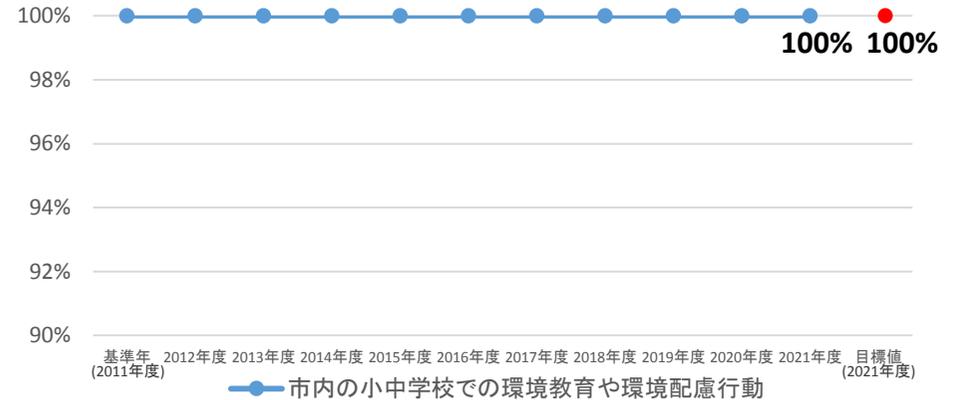
達成目標

①環境に配慮した行動を行っている市民の割合(2011年度、40.7%)の10ポイント増の50.7%を目指します。



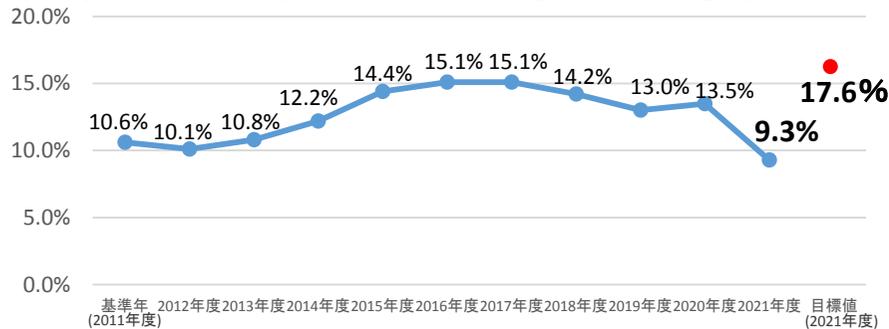
環境に配慮した行動を行っている市民の割合は、基準年度から2.4ポイント減少しました。

②市内の小中学校での環境教育や環境配慮行動の100%実施をめざします。



市内の小中学校における環境学習は、全校で継続的に行われ、定着を図ることができました。

③環境学習や環境に関するイベント等に積極的(いつも・ときどき)に参加する市民の割合(2011年度、10.6%)の7ポイント増の17.6%をめざします。



環境学習や環境に関するイベントへの参加率は、途中15.1%まで上昇したものの、最終年度で9.3%まで下がり、目標達成とはなりません。

2021年度までに実施した主な取り組み

- ・学校のビオトープを活用した出前授業や、子ども向けの動画を活用した普及啓発、燃料電池自動車を活用した水素の出前授業など、将来を担う子供たちに対して、環境に興味をもってもらえるよう、学習の機会をつくりました。
- ・市内の事業者へエコな取組を行う宣言をしていただき、その活動を市がPRする制度「まちだエコ宣言」については、最終的に宣言数が105店・事業所(2015年度時点:67店・事業所、目標:100店・事業所)となるなど、事業者への協働の取組も大きくすすめました。

子ども向けの学習機会の場を設け普及啓発等を実施したり、エコ宣言事業者制度の活用により事業者との協働を進めたりと、学習と協働について取り組みを推進してきましたが、基本目標5における達成目標の達成は1つにとどまりました。市民の方の行動変容に繋がるよう、環境学習や環境に関するイベント、普及啓発等は今後も推進していきます。